



# 尾崎まさやの市議会報告

## 2017年春

【発行元】至政クラブ 尾崎まさや 〒640-8287 和歌山市築港3丁目33 TEL(073)436-2858 FAX(073)436-1398



砂山、今福、吹上の各連合自治会長と仁坂知事、尾花市長（写真下）を陳情。まちづくりの協力を求めました。

日ごとに暖かさを感じるようになってきました。皆様におかれましては益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、和歌山市の2017年度当初予算案を審議する当初議会が3月23日に閉会しました。一般会計は約1462億円で、

今年度から10カ年で進められる市のまちづくりの指針「第5次長期総合計画」を具現化していくための予算編成となつていて、尾花市長は「未来に向けた成長を確かなものにする予算」と長計初年度の予算を位置づけています。

私たち市議会もその予算案を含む全ての議案を慎重かつ厳密に審査し、全議案を認め可決しました。私も市長同様、和歌山市のこの先10年を見据えたまちづくりを進める最初の一步の年度として、重要な1年であると認識しています。今議会で議案を認めたからといってチェックの目を緩めることなく、さまざまな事業の進捗状況を見守り、問題あれば指摘し、確かな方向に軌道修正していくよう指導して参ります。

中でもこれまで私が訴え続けてきた、市域インフラ整備の促進。特に市域に乏しい東西道路の核となる有本中島線や水軒通

りに加え、今福神前線の残り約1.5区間の着工。「文教の杜計画」としてスタートした砂山南地区を中心としたまちづくり事業の進展と拡充に加え、空き家対策の推進。さらに片男波の潮干狩り場の再開に向けたアサリの再生事業などにはこれまでも増して強く取り組んでいく決意です。

今後も住みよいまちづくりのための提案を続けていくため、様々な問題と向き合っていく予定です。これからも引き続き、ご支援とご協力、ご理解を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



和歌山市2017年度予算

# 10カ年のまちづくりスタート

## 第5次長期総合計画

なる上、受益者負担金制度がネックとなって承諾を得られないケースも出てきます。

砂山・今福まちづくり事業のワークシヨップで、今福・雑賀地区内の約18軒の広大な区域に公共下水道が未整備であることが判明。これは、区域内道路が全て私道だったことが要因でした。

そこで、下水道整備の円滑化を進めるため受益者負担金の徴収を猶予するよう働きかけてきました。結果、今年の2月議会で【参照1】のよう猶予規準を新設・追加する条例改正案が承認されました。今福・雑賀地区をはじめ未整備地区に明るい兆しが見えてきました。



今福・西小二里地区（私道が復層するエリア）住民の住民による下水道説明会

【参照1】

### 周辺地域の公共下水整備を進めるため、条例施行規則の改正

— 改正内容 —

【今回の規則改正により追加された受益者負担金の猶予基準】

- 私道を所有し、その土地に下水道管を埋設することに同意した土地所有者で、その私道に接する土地に建物がある場合。
- 私道を所有し、その土地に下水道管を埋設することに同意した土地所有者で、その私道に接する駐車場や空地进行している場合。

↓

**3年以内に改築を行う予定がある場合、申請することにより負担金の徴収が猶予されます。**

↓

**その土地に建物を建築し、公共下水道の使用を開始するまでの間、申請することにより負担金の徴収が猶予されます。**

### 潮干狩り場復活で観光客誘致を

片男波の潮干狩り場再開に向けたアサリ再生の取り組みにも変わらず奔走しています。同じく干潟の再生や保全に取り組み山口県周南市の視察や、地元和歌浦小学校の環境学習授業にお邪魔するなどして、解決策を模索したり、子どもたちに干潟の貴重さや環境保全を訴えたり、地元漁協をはじめとする関係者の協力を仰ぐなどしています。

また、市に対する働きかけも続け、今年度も食害調査や試験的潮干狩りの開催などの予算として約350万円を獲得しました。エイやチヌなどの食害からアサリを守る取り組みを進め、潮干狩り場の復活を果たし、観光客誘致につなげたいと思っています。





まず、私が市議になってから一貫して重要性を訴えてきた「道」です。市は今年度、道路予算として約6億6700万円を計上しています。新たに有本中島線を整備するためや松島本渡線の工事継続費などですが、このうち約2億円が今福神前線に充てられています。

県は今年3月31日に今福神前線事業を正式に認可。これに伴い、市は道路詳細設計や用地調査・測量、家屋調査、用地所得といった道路整備に必要な動きを本格化させます。堀止から大浦街道に抜ける残り約1.5区間が開通すれば、これまで消防車や救急車などの進入が困難だった地域の安心安全が高まることに加え、南北に走る幹線道路とのコンタクトも円滑化され生活環境が向上します。

加えて、県市連携で行っている紀ノ川右岸堤防道路「北島湊線」の拡幅工事のほか、通称「水軒通り」の南港山東線の整備も着々と進み、幹線道路を補う生活道路の整備が一気に図られてきました。

インフラ整備の遅れから生じてきた、交通遅滞による経済的ロス、産業振興の遅れ、生活環境の悪化などが、京奈和自動車道や第二阪和国道の開通と東西道路の充実などによって解消されるものだと強い期待をしています。

また、道路整備に合わせて私

和歌山市の公共下水道の整備は他都市に比べて非常に遅れ、中核市ではワースト1です。公共下水道は負担の公平原則から整備区域内の土地所有者(受益者)に1平方メートルあたり300円を負担してもらう「受益

### 受益者負担金に猶予期間新設

## 公共下水道未整備地区に朗報

者負担金制度」を採用しています。また、個人所有の道路、いわゆる私道に下水道管を埋設する場合、土地所有者に土地使用承諾を得る必要があります。整備区域内に私道が多くある場合、非常に時間を費やすことと

また、まちづくりにおいて課題となってくる空き家対策についても約2000万円の事業予算が計上されました。空き家の実態調査や活用を図るための具体策の策定などを進めていくということです。

が「文教の杜計画」として提案し進めてきた砂山・今福地区のまちづくり事業も進みます。このまちづくり事業は2015年度をスタートに5カ年で進行しています。周辺の学校へ通う子どもたちの安全を考慮した道路整備や、県立和歌山商高西側の道路を公園新設と合わせて「砂山コミュニティ緑道」として整備するなど目に見える形で変化



そして、このまちづくり事業をモデルとして、地域のまちづくり活動やワークショップの開催などを通じて特色あるまちづくりを支援するため約300万円の事業費が予算化されました。地域住民と行政、関係機関が協働してつくりあげた砂山・今福のまちづくり手法が市域に波及していくことは嬉しい限りです。

また、道路整備に合わせて私

## 砂山・今福のまちづくり事業